

■ご挨拶

もう15年、まだ15年

日本風力発電協会 理事 秋吉 清一郎
グリーンパワー株式会社 代表取締役



はじめに

平成 26 年度に引き続き、今年度も理事を務めさせて頂くこととなりました。2000 年の任意団体日本風力発電協会以来、15 年目の公の場ですが、今年も初心に帰って務めさせて頂きますので、何卒よろしくお願い致します。

15 年の間に何があったのだろう

今年のご挨拶は写真に少し凝ってみました。なんじゃこりゃ？若い方はそう思った人も多いのではないのでしょうか。懐かしいなあ。年配の方、特に商社出身の方はお気づきの方も多いかもかもしれません。これは 30 年前にベルリン市内で撮影した写真です。当時、この撮影場所から道路を挟んで向かい側に銀行がありました、そして写真に向かって右手に 100m ほど歩くと東ベルリンに行くための検問所がありました。そんな所で近くに屯していた北斗の拳の悪役みたいな格好をしたお兄さんに撮ってもらった写真です。今、この場所がどのようなになっているかについては最早説明する必要は無いでしょう。今ではもう跡形もありません。

15 年前、私がお客さんに勧めていた風車の制御装置はこの旧東ドイツで作られていました。後に NKK が製造権を買い取って、東芝に製造をお願いすることになる LW750 です。後期型の LW750 改め J50 は当時多発していた制御回りのトラブルも鳴りを潜め、今では欧州から中古機の引き合い話もあるように聞いています。

15 年前、日本風力発電協会は日本橋で産声をあげました。え、秋葉原じゃないの？と思われた方もいるのではないのでしょうか。実は日本風力発電協会の設立準備は、とある一個人からお借りした 300 万円を元手に始まりました。それでも資金が足りなかつたので、人件費はたった 1 人の事務員さんを除いて他は全員手弁当、事務所はとあるコンサルタント会社の会議室をタダ同然で間借りして発足しました。初代の代表理事だったヴェステックジャパンの山村社長の方針で「間口は広く、敷居は低く」を合い言葉に会員数を順調に増やし、半年ほどで秋葉原に事務所を構え借りたお金を返して皆さん

ご存じの日本風力発電協会の原形が出来ました。その山村さんがまだ豊田通商の部長さんだった頃に設置した風車が今年 20 年目を迎えます。オーナーさんは事業の継続を断念し、撤去する方針だという話を先日伺いました。

15 年の間に多くの人や資本が風力発電に参入し、店を畳んで引き上げた会社も人も少なくはありません。電気の買い取り価格も 13.8→11.5→10.5→5.7→22 円/kWh と推移しました。社会における風力発電設備の位置づけも趣味の自家発電設備から一人前の発電所として社会インフラの一角を担うようになりました。当然、責任も重くなるのですが、責任を取りたくないから今のままでよいというのは子供の我が儘だと肝に銘じる今日この頃です。

次の 15 年に向けて

思いだしてみると色々なことが有り、一時として立ち止まることが出来ない日々の連続だったはずなのですが、それでもなお、まだ 15 年しか経っていないというのが実感です。

2000 年に設置された風車がこれからの 5 年間、退役を迎えます。その時風車はまだ働けるというのでしょうか、それとももう無理さっさと撤去してくれというのでしょうか？この 15 年間、風力発電に携わる者として必死にやってきたということは自信を持って言い切れます。しかし、故障の頻度は低減したのか？迅速に対処できるようになったのか？優良な投資事業として新規の資本が参入し易くなったのか？新規参入の障壁は逆に高くなっているのではないのか？なによりも愛情を持って設備に接してきたのか？と顧みて、やるべき事を全てやってきたのかと自問すると、やはりまだ 15 年しか経っていないと言わざるを得ないのです。

おわりに

今後とも日本風力発電協会の理事として、まだまだやらねばならないことが山積しているように思います。加えて微力ながら新しい仲間を迎える一助となることを願ってやみません。